保育計画成果報告書

法人名等	
施設名	おひさま保育園
報告者（役職）	遠藤　節子（ 園長 ）
住所・連絡先	福島県喜多方市東桜ガ丘２丁目 40 番
	☎　0241－23－6503 E-mail　e.setuko.123@gmail.com

○タイトル（保育計画）

子どもに寄り添った丁寧な保育の中で、子ども一人ひとりが体を動かすことを楽しみ、社会性を培っていく。

○主な助成備品

滑り台、ログアスレチック

１．保育計画策定の目的

おひさま保育園は、喜多方市の認可保育園として令和３年４月に開園した 0～2 歳児(定員 19 名)の小規模保育園です。「子どもの命を守り、安心して生活ができるよう子どもに寄り添った丁寧な保育をし、よりよい親子関係を支援する」・「自分を大切にし、回りの人も大切にできる子どもを育成する」・「地域に愛される園を目指す」ことを保育理念とし、よりよい保育を提供できるよう努めています。

開園当初は、園庭に固定遊具を設置し、心身の発達を促したいと思っていましたが、予算の都合上、砂場のみで固定遊具を設置することができませんでした。四季折々の自然に触れながら砂遊びを満喫する日々でしたが、滑り台やログアスレチックを設置することで、友達と一緒にのびのびと体を動かすことを楽しみながら、社会性を培っていきたいと考え、この事業を活用した保育計画を策定しました。

２．具体的な実施内容

○滑り台

＜0 歳児＞
・遊び始めの頃は、ハイハイで階段を上り、うつ伏せ姿勢で足から滑り降りていた子ども達も、繰り返し経験していく中で、一段ずつゆっくりと階段を上り、保育士にサポートされながら滑り降りることができるようになりました。1.2 歳児の遊ぶ姿を見て、「やってみたい」と意欲的にチャレンジし、体を動かす楽しさを十分に味わっていました。

＜1 歳児＞
・段差の上り下りに興味を示していた時期だったので、手すりをしっかりと握り、手足を動かすタイミングを合わせながら、階段を上る過程を楽しんでいました。徐々に、しっかりと足をつけて階段を上れるようになり、滑り降りる時のわくわく感を味わっていました。手足の協調動作やバランス感覚も養うことができ、体幹もしっかりとしてきました。

＜2 歳児＞
・遊び始めの頃は、人気の滑り台に子ども達が集中し、順番を守れずにトラブルになることもしばしばありましたが、繰り返し遊ぶ中で順番を守れるようになり、社会性も身についてきました。滑り降りるスピード感や空間移動の楽しさを十分に味わっていました。

○ログアスレチック（階段・ジグザグウォーク）

＜0 歳児＞
・階段では、両手をついたり、手すりにつかまったりしながら、一段ずつ一歩一歩ゆっくりと上り下りを楽しんでいました。ジグザグウォークでは、ベンチに見立て 1.2 歳児と一緒に座り、やり取りをする姿がありました。

＜1 歳児＞
・階段の上り下りを楽しむとともに、手すりに両手をついてジャンプをしたり、友達とつながり、電車ごっこをする姿が見られました。また、ジグザグウォークでは、バランスを取りながら前向きや横向きで歩くことを楽しんでいました。

＜2 歳児＞
・ジグザグウォークの上をバランスを取りながら前向きや横向きで歩いたり、両手をついて高這いの姿勢で歩いたりといろいろな歩き方を楽しんでいました。両側から階段を上

り、じゃんけんをして陣取りゲームのように遊ぶ姿も見られました。また、ベンチに見立てて座ったり、テーブルにしたりして、砂で作ったご馳走を並べてごっこ遊びを楽しむ姿もありました。階段では、追いかけっこで逃げこむ場所として、上り下りを楽しんでいました。

３．その成果と評価

滑り台やログアスレチックがあることで、上る・下りる・跳ぶ・滑り降りるなどの様々な動きを経験し、のびのびと体を動かして遊ぶ姿が多く見られるようになりました。

その中で、友達の刺激を受けて「自分もやってみたい！」とチャレンジすることが多くなり、運動機能を高めることができました。また、園庭での異年齢児とのやりとりやごっこ遊びなどが広がり、友達同士のコミュニケーションも深まり、社会性も培うことができました。

４．今後の課題と展望

固定遊具を設置させていただいたことで、心身ともに大きな成長が見られました。

固定遊具を初めて使用した時の子ども達の笑顔、目を輝かせて歓声を上げる姿が、未だに目に焼きついています。

今後も、子ども一人ひとりに寄り添いながら心身の発達を図り、わくわく感を味わえるような楽しい環境を提供していきたいと思います。

助成していただいたことに感謝し、大切に遊具を使わせていただきます。

ありがとうございました。

以上